

Oracle® Universal Content Management

Oracle Text Search コンポーネント・インストール
および管理ガイド

10g リリース 3

部品番号 : B51297-01

2008 年 9 月

Oracle Universal Content Management Oracle Text Search コンポーネント・インストールおよび管理ガイド, 10g リリース 3

部品番号 : B51297-01

原本名 : Oracle Universal Content Management Oracle Text Search Component Installation and Administration Guide, Release 10gR3

原本著者 : Karen Johnson

原本協力者 : Hui Ye

Copyright © 2008, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかえる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性あります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

| | |
|---|-----|
| はじめに | iii |
| 対象読者 | iv |
| ドキュメント・アクセシビリティについて | iv |
| 関連ドキュメント | iv |
| 表記規則 | v |
| サポートおよびサービス | v |
| | |
| 1 Oracle Text Search コンポーネントの概要 | |
| 1.1 目的 | 1-2 |
| 1.2 考慮事項 | 1-2 |
| 1.3 Oracle Text 11g 使用の利点と特徴 | 1-3 |
| 1.3.1 索引付けおよび問合せの速度と方法 | 1-3 |
| 1.3.2 高速再構築 | 1-4 |
| 1.3.3 問合せ構文 | 1-4 |
| 1.3.4 検索演算子 | 1-4 |
| 1.3.4.1 検索ソーラス | 1-6 |
| 1.3.5 大 / 小文字の区別およびステミングのルール | 1-6 |
| 1.3.6 検索結果データのクラスタリング | 1-7 |
| 1.3.7 スニペット | 1-7 |
| 1.3.8 その他の変更 | 1-7 |
| 1.3.9 Oracle Text Search と Secure Enterprise Search | 1-7 |
| | |
| 2 インストールおよび構成 | |
| 2.1 要件および考慮事項 | 2-2 |
| 2.2 インストール前の構成 | 2-2 |
| 2.2.1 Oracle Database 構成スクリプトの実行 | 2-2 |
| 2.2.2 管理者ロールの割当て | 2-2 |
| 2.3 コンポーネントのインストール | 2-3 |
| 2.3.1 Component Wizard でのインストール | 2-3 |
| 2.3.2 Component Manager でのインストール | 2-4 |
| 2.4 インストール後の構成 | 2-4 |
| | |
| 3 Oracle Text Search コンポーネントの管理 | |
| 3.1 最適化するフィールドの決定 | 3-2 |
| 3.2 最適化フィールドの割当て / 編集 | 3-2 |
| 3.3 高速再構築の実行 | 3-2 |

| | | |
|-----|--|-----|
| 3.4 | 検索コレクションの最適化 | 3-3 |
| 3.5 | 検索結果で表示される Oracle Text Search フィールドの変更 | 3-3 |
| 3.6 | 「Text Search Admin」 ページ | 3-3 |

4 Oracle Text Search コンポーネントによる検索

| | | |
|-----|----------------------------------|-----|
| 4.1 | 検索の実行 | 4-2 |
| 4.2 | Oracle Text Search による検索結果 | 4-2 |

A サード・パーティ・ライセンス

| | | |
|-----|---------------------------------------|-----|
| A.1 | Apache Software License | A-2 |
| A.2 | W3C Software Notice and License | A-2 |
| A.3 | Zlib License | A-3 |
| A.4 | 一般的な BSD ライセンス | A-3 |
| A.5 | 一般的な MIT ライセンス | A-4 |
| A.6 | Unicode ライセンス | A-4 |
| A.7 | その他の帰属 | A-5 |

索引

はじめに

このマニュアルでは、Universal Content Manager Content Server での Oracle Text Search コンポーネントのインストール、構成および管理について説明します。Oracle Text Search コンポーネントは、Oracle Database 11g でプライマリ検索エンジンとして機能します。この機能は、2008 年 6 月現在、Autonomy VDK が Universal Content Management に付属して販売されていないために提供されています。

このマニュアルに記載されている情報は、製品技術の進歩、またはハードウェア、オペレーティング・システムおよびサード・パーティ・ソフトウェアの作成および変更に伴い、変更されることがあります。

対象読者

このマニュアルは、Oracle Text Search を Content Server のプライマリ検索エンジンとして実装する開発者および管理者を対象としています。

ドキュメント・アクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話（TTY）アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

関連ドキュメント

詳細は、Oracle Technology Network（OTN）(<http://www.oracle.com/technology/index.html>) から入手可能な次の Oracle リソースを参照してください。

Oracle Text 11g に関する情報：

- 『Oracle Text アプリケーション開発者ガイド』
- 『Oracle Text リファレンス』

Oracle Database 11g に関する情報：

- 『Oracle Database 概要』
- 『Oracle Database 管理者ガイド』
- 『Oracle Database ユーティリティ』
- 『Oracle Database SQL リファレンス』
- 『Oracle Database リファレンス』
- 『Oracle Database アプリケーション開発者ガイド - 基礎編』

PL/SQL に関する情報：

- 『Oracle Database PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』

Oracle Universal Content Management Content Server 10gR3 に関する情報：

- Oracle Content Server のインストール・ガイド
- 『リポジトリ・コンテンツの管理』
- 『セキュリティおよびユーザー・アクセスの管理』
- 『システム設定およびプロセスの管理』
- 『Oracle Content Server リリース・ノート』
- 『Working with Content Server Components』

表記規則

このマニュアルでは次の表記規則を使用します。

| 規則 | 意味 |
|--------------------|--|
| 太字 | 太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。 |
| イタリック体 | イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。 |
| 固定幅フォント | 固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。 |
| <i>Install_Dir</i> | この表記は、コンテンツ・サーバー・インスタンスがインストールされているシステム上の場所を参照するために使用されます。 |

サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

Oracle Text Search コンポーネントの概要

この章の内容は次のとおりです。

- 1-2 ページの「[目的](#)」
- 1-2 ページの「[考慮事項](#)」
- 1-3 ページの「[Oracle Text 11g 使用の利点と特徴](#)」

1.1 目的

Oracle Text Search コンポーネントにより、Universal Content Management (UCM) のプライマリ全文検索エンジンとして Oracle Text 11g を使用できるようになります。Oracle Text 11g は、UCM で Autonomy VDK により提供される検索機能と同等以上の最新の索引付け機能を提供します。Oracle Text 11g には、Secure Enterprise Search (SES) の基本的な検索機能が備わっています。ただし、Oracle Text 11g には独自の問合せ構文があり、これは一時的なエンドユーザーよりはむしろアプリケーションまたは情報の専門家による使用を対象としています。

このコンポーネントを使用すると、管理者は、特定のメタデータ・フィールドを指定して検索索引用に最適化することも、追加のフィールドをカスタマイズすることもできます。また、高速の索引再構築や索引最適化も行えます。

Oracle Text Search コンポーネントをインストールすると、「Search Results」ページに新しいメニュー・バーとオプションが追加され、ユーザーはこのページから検索によって検出されたコンテンツ・アイテムの表示を管理できます。

1.2 考慮事項

次の事項は、Oracle Text Search コンポーネントの使用を検討する際に重要です。

- このコンポーネントは、サポートされているオペレーティング・システムでの Content Server 10gR3 上で稼働します。
- UCM 10gR3 は、動作保証マトリックスで定義されているすべての言語をサポートします。
- Oracle Text 11g は、Oracle Database 11g 上で稼働します。UCM システム・データベースは、Oracle Database 11g、Microsoft SQL Server または UCM 10gR3 の動作保証マトリックスにあるその他のデータベースでもかまいません。ただし、システム・データベースが Oracle Database 11g でない場合は、Oracle Text Search のプロバイダを構成する必要があります。
- UCM 10gR3 には、各種データベース（Oracle、Microsoft SQL Serve、IBM DB2）を使用する多数の検索オプションが備わっていますが、デフォルトでは、検索索引としての機能を果たすデータベースは、UCM でメタデータやその他の構成情報（ユーザー、セキュリティ・グループなど）の管理に使用されるのと同じシステム・データベースです。Oracle Text Search コンポーネントを使用することで、Oracle Text 11g が UCM 用の Oracle Database 上で独立した検索コレクション・インスタンスとして有効となり、検索コレクションを別のマシンに置いて、プロセッサやメモリーに関して UCM と競合しないようにできます。その結果、索引付けおよび検索のレスポンス時間を短縮できます。
- Oracle Text Search のコレクション・インスタンスは、UCM インストールとは異なるプラットフォームにインストールできます。
- UCM で Oracle Text 11g を使用する場合、Oracle Text Search コンポーネント以外にコンポーネントやカスタマイズは必要ありません。問合せオブティマイザ・コンポーネントは、大規模なデプロイメントに使用できますが、Oracle データベースに対して実行されるシステム問合せにのみ作用し、検索コレクション・インスタンスに対して実行される問合せには作用しません。

1.3 Oracle Text 11g 使用の利点と特徴

この項の内容は次のとおりです。

- 1-3 ページの「索引付けおよび問合せの速度と方法」
- 1-4 ページの「高速再構築」
- 1-4 ページの「問合せ構文」
- 1-4 ページの「検索演算子」
- 1-6 ページの「大 / 小文字の区別およびステミングのルール」
- 1-7 ページの「検索結果データのクラスタリング」
- 1-7 ページの「スニペット」
- 1-7 ページの「その他の変更」
- 1-7 ページの「Oracle Text Search と Secure Enterprise Search」

1.3.1 索引付けおよび問合せの速度と方法

Oracle Text 11g を使用すると、索引付けの速度が大幅に高まります。Oracle Text の索引付けは、トランザクションです。Content Server は、ドキュメントのバッチを Oracle Text に送信し、そのバッチをコミットしてから、Oracle Text インデクサを起動します。Content Server には、索引付けに失敗したドキュメントが通知され、それらのドキュメントのみが索引付けのために再送信されます。Content Server では、データベースとのパラレル索引付けの使用もサポートされており、データベース・サーバー上の複数の CPU を活用できます。このパラレル索引付けオプションは、config.cfg ファイルの次の Content Server 構成変数により有効にできます。

```
OracleTextIndexingParallelDegree=1
```

検索問合せレスポンス時間は、索引付けの高速化と、検索コレクションを最適化するための Content Server の追加機能により短縮されます。これらの機能には、Content Server インスタンスに 5,000 ドキュメントが追加されるたびに実行される自動の高速最適化と、50,000 ドキュメントごとにまたはリポトリが 20% 増加するたびに実行される完全最適化があります。

UCM では、Oracle Text 11g の最新機能の一部を使用します。たとえば、Content Server では、検索速度を上げるために、テキスト情報フィールドごとに新しい検索索引ゾーンが自動的に作成されます。情報ゾーンを使用すると、Content Server でデータがあたかもフルテキスト・データであるかのようにデータを問い合わせることができます。テキストベースの情報フィールド（テキスト、ロング・テキストおよびメモ）すべてが、別々のゾーンとして自動的に追加されます。テキスト情報フィールド用に作成されるゾーンに加えて、Content Server には IdcContent という追加ゾーンも用意されており、これにより、カスタム・コンポーネント、Inbound Refinery のコンポーネント、アプリケーションまたはユーザーは、フルテキスト・メタデータ・フィールドとして索引付けされるタグ付き XML コンテンツを作成できます。

UCM では、重要なテキスト、日付および整数のフィールドに索引を付け、それらを最適化フィールドとして定義するために、Oracle Text 11g の SDATA セクション機能も使用します。SDATA セクションは、Oracle Text エンジンによって管理される独立した XML 構造で、これによりエンジンは、データ範囲と整数範囲を含むリクエストに迅速に応答できます。最適化フィールドは、Oracle Text Search コンポーネントの「Text Search Admin」ページを使用して定義できます。Content Server では、最大 32 の最適化フィールドを設定できます。Content ID フィールドと Document Title フィールドが、最適化フィールドとして自動的に定義されます。

注意： Oracle Text 11g で定義された一連の最適化フィールドを変更する場合、定義可能な最適化フィールドの最大数は 32 です。

1.3.2 高速再構築

Oracle Text Search コンポーネントには、「Text Search Admin」ページに高速再構築のオプションがあります。このオプションにより、検索エンジンは、コレクション全体を再構築することなく、検索コレクションに新しい情報を追加できます。高速再構築は次の場合に必要です。

- 情報フィールドの追加または削除
- 任意の最適化フィールドの変更
- 情報フィールドの最適化フィールドへの変更

高速再構築により、すべての情報（メタデータとフルテキスト）に索引が付けなおされるわけではありません。コレクション全体に変更を追加し、更新します。高速再構築サイクル中に Content Server の検索機能に対する影響はありません。

1.3.3 問合せ構文

Universal Query Syntax (Content Server リリース 7.5 で導入) で定義されている問合せがサポートされており、通常変更は不要です。これには、ユーザーが保存した問合せ、カスタム・コンポーネントで定義された問合せ、Site Studio のページで定義された問合せが含まれています。

1.3.4 検索演算子

Oracle Text では、デフォルトの次の演算子を含め、Autonomy VDK と同じ検索演算子がサポートされています。

- CONTAINS
- MATCHES
- Has Prefix
- Not Contains
- 日付および整数の範囲検索

Oracle Text 11g エンジンでは、デフォルトでユーザー・インタフェースには表示されないその他の検索演算子および関数がサポートされていますが、演算子定義 HDA 表に追加するカスタマイズにより表示できます。これには表 1-1 に示した演算子が含まれています。これらの演算子の詳細および例は、『Oracle Text リファレンス』を参照してください。

表 1-1 Oracle Text 検索演算子および関数

| 問合せ演算子 | 説明 |
|-------------------------------|---|
| ABOUT | 有効な場合はテーマ検索を実行し、問合せから返される関連ドキュメントの数を増やします。 |
| ACCUMulate (,) | 問合せ語のいずれかが 1 つ以上含まれるドキュメントを検索します。より多くの語が検出されるように関連性を高めます。 |
| Broader Term (BT、BTG、BTP、BTI) | シソーラスで広義語すなわち上位語として定義されている語が含まれるように問合せを拡張します。 |
| DEFINEMERGE | AND および OR の子ノードのスコアをどのようにマージするかを定義します。 |
| DEFINESCORE | 語または句、または一連の語の等価をどのようにスコア付けするかを定義します。 |
| EQUIValence (=) | 問合せ内の置換語を指定します。 |
| FUZZY | 指定した語にスペルが類似するか、発音が類似する語が含まれるように問合せを拡張します。 |
| HASPATH | 指定したセクション・パスを含むすべての XML ドキュメントを検索します。 |

表 1-1 Oracle Text 検索演算子および関数（続き）

| 問合せ演算子 | 説明 |
|----------------------------------|---|
| INPATH | XML ドキュメントで特定のパス内の検索を実行します。 |
| MDATA | MDATA (MetaDATA) セクションを問い合わせます。 |
| MINUS (-) | 特定の語を含むドキュメントの関連性のランクを下げますが、必ずしもそれらを除外するわけではありません。 |
| Narrower Term (NT、NTG、NTP、NTI) | 指定語の狭義語すなわち下位語としてシソーラスに定義されているすべての語が含まれるように問合せを拡張します。 |
| NEAR (;) | 2 つ以上の問合せ語の出現位置の近さを基準にしてスコアを返します。 |
| Preferred Term (PT) | 問合せ内の語を、シソーラスでその語に対して定義されている優先語と置換します。 |
| Related Term (RT) | 問合せ内の語を、シソーラスでその語に対して定義されている関連語と置換します。 |
| SDATA | 構造化データの値を含む SDATA セクションおよび列でテストを実行します。 |
| soundex (!) | 発音が類似する語が含まれるように問合せを拡張します。 |
| stem (\$) | 問合せ語と同じ語根を持つ語を検索します。 |
| ストアド・クエリー式 (SQE) | CTX_QUERY.STORE_SQE プロシージャで作成されたストアド・クエリー式をコールします。 |
| SYNonym (SYN) | 問合せを拡張し、指定語のシノニム（類義語）としてシソーラスに定義されているすべての語を含めます。 |
| threshold (>) | 式レベルのこの演算子は、しきい値を下回るスコアのドキュメントを結果セットから除外します。問合せ語レベルのこの演算子は、ドキュメント内で語がどのようにスコアを出すかに基づいてドキュメントを選択します。 |
| Translation Term (TR) | シソーラスに定義されている外国語の等価語がすべて含まれるように問合せを拡張します。 |
| Translation Term Synonym (TRSYN) | 問合せ語に対して定義されている外国語の等価語、問合せ語のシノニムおよびシノニムの外国語の等価語がすべて含まれるように問合せを拡張します。 |
| Top Term (TT) | 問合せ語を、シソーラスの標準階層内でその語に対して定義されている最上位語と置換します。 |
| weight (*) | 指定した係数をスコアに掛けます。積の最高値は 100 です。 |
| wildcards (%_) | 文字列検索をパターン検索に拡張します。 |
| WITHIN | 問合せをドキュメント・セクションに絞り込みます。 |

1.3.4.1 検索シソーラス

stem や Related Term などの一部の問合せは、Oracle Text シソーラスを使用すると、効果が上がる場合があります。Oracle Text を使用すれば、語や句のシノニムや階層上の関係を定義する、大 / 小文字の区別ありまたは大 / 小文字の区別なしのシソーラスを作成できます。その結果、問合せを拡張してシソーラスに定義されている類義語または関連語を含めることで、関連テキストを含むドキュメントを検索し、取得できます。たとえば、具体的な製品名、関連モデル、関連機能などをシソーラスに登録できます。

- **デフォルトのシソーラス**: 問合せでシソーラスの名前を指定しないと、デフォルトでは、シソーラスの演算子は DEFAULT というシソーラスを使用します。ただし、Oracle Text には DEFAULT シソーラスは用意されていません。

その結果、シソーラス演算子にデフォルトのシソーラスを使用する場合は、DEFAULT という名前のシソーラスを作成する必要があります。シソーラスは、Oracle Text でサポートされているシソーラス作成方法のどれを使用しても作成できます。

- CTX_THES.CREATE_THESAURUS (PL/SQL)
- ctxload ユーティリティ

- **提供されるシソーラス**: Oracle Text ではデフォルトのシソーラスはありませんが、ctxload によりロードするファイル形式のシソーラスが提供されており、汎用の英語シソーラスの作成に使用できます。

シソーラス・ロード・ファイルは、Oracle Text 用のデフォルト・シソーラスの作成に使用でき、また特定のサブジェクトや、サブジェクトの範囲に合せたシソーラスの作成の基礎として使用することもできます。

注意: ctxload と CTX_THES パッケージの使用の詳細は、『Oracle Text リファレンス』、および『Oracle Text アプリケーション開発者ガイド』の第 9 章「Oracle Text でのシソーラスの使用」を参照してください。

1.3.5 大 / 小文字の区別およびステミングのルール

Content Server では、問合せは自動的に大文字と小文字を区別しないものとして実行されます。デフォルトでは、全文およびテキスト・フィールド検索の問合せは、すべて大文字と小文字の区別はありません。Content Server では、最適化フィールドとして格納されている情報に対する大文字と小文字を区別しない検索問合せも処理します。

Content Server は、Oracle Text 11g にデフォルトとしてステミング・ルールを適用しませんが、stem() 関数を使用することで、ステミング・ルールを適用できます。ステミング・ルールは、複数形、動詞などの検索アカウントを設定するときに使用できます。ステミング・ルールを実装する方法には他に、searchindexerrules 構成ファイルでの標準問合せ定義の変更や、Oracle Text エンジン (Oracle Database) での構成の変更があります。

Content Server では、Oracle Text エンジンで WORLD_LEXER 機能を使用することで、英語以外の言語のコンテンツを処理します。これにより、Oracle Text は自動的に言語を識別し、適切なトークン化ルールを適用できます。

1.3.6 検索結果データのクラスタリング

Content Server では、Oracle Text Search を使用して、検索結果リストについての追加情報を取得し、「Search Results」ページの新しいメニュー・バーにそれを表示します。この情報には、特定の情報フィールドの特定の値にどれだけのドキュメントが添付されているかが要約されています。Content Server では、最大 4 つの情報フィールドのクラスタリングがサポートされています（デフォルトのフィールドは、Security Group と Document Type です）。

これは、多くのアイテムを返す問合せの場合に役に立ちます。たとえば、結果セットに、「Public」セキュリティ・グループに属する 100 ドキュメント、「Sales」グループに属する 75 ドキュメント、および「Marketing」グループに属する 25 ドキュメントを含む、200 のコンテンツ・アイテムが含まれているとします。「Security Group」のメニュー・オプションには、値リストと、それぞれの値に属するドキュメントが表示されます。メニューから値（「Public」、「Sales」、「Marketing」）の 1 つを選択すると、その値に属するドキュメントのみが結果セットのリストに示されます。

1.3.7 スニペット

Content Server は、使用される文脈での検索語の出現を示すために、検索結果の一部としてドキュメントのスニペットを取得できます。この機能はデフォルトで有効です。検索問合せのパフォーマンスを向上させるためにこの機能を無効にするには、config.cfg ファイルで次の構成エントリを設定します。

```
OracleTextDisableSearchSnippit=true
```

1.3.8 その他の変更

Oracle Text 11g を使用するためのその他の変更は、次のとおりです。

- XML コンテンツには、自動的に索引が付けられます。
- Search のユーザー・インタフェースには、検索演算子オプションとして「Substring」が削除されている以外に目に見える変更はありません。デフォルトの検索演算子は、CONTAINS、MATCHES、Has Prefix および Not Contains です。部分文字列ベースの問合せはそのまま機能します。
- MATCHES 演算子を非最適化フィールドで使用する問合せは、CONTAINS 問合せと同様に動作します。たとえば、xDepartment が最適化されていない場合、問合せ `xDepartment MATCHES 'Marketing'` は `xDepartment CONTAINS 'Marketing'` と同様に動作し、ドキュメントで 'Marketing Services' または 'Product Marketing' の xDepartment 値を持つヒットを返します。
- 関連性のランキングは、DEFINESCORE という演算子の使用により、Oracle Text 11g で変更される可能性があります。この演算子は、SearchQueryDefinition 表 (searchindexerrules 構成ファイル内) の OracleTextSearch の WhereClause 値にコンポーネントを使用して追加できます。この演算子の詳細は、『Oracle Text リファレンス』を参照してください。
- PDF の強調表示機能は無効になりました。
- スペル・チェック機能は有効にできますが、Autonomy VDK の場合と同様に、カスタム・コンポーネントが必要です。

1.3.9 Oracle Text Search と Secure Enterprise Search

Oracle Text 11g には、Secure Enterprise Search (SES) の基本的な検索機能が備わっていますが、Oracle Text 独自の問合せ構文もあります。Oracle Text 構文の方が SES 構文より好ましい状況もあります。特殊マーカー [otext:] が前に付く SES 問合せは、SES による処理を進めることなく、Oracle Text に直接渡されます。詳細は、『Oracle Secure Enterprise Search 管理者ガイド』および『Oracle Text リファレンス』を参照してください。

インストールおよび構成

この項の内容は次のとおりです。

- 2-2 ページの「要件および考慮事項」
- 2-2 ページの「インストール前の構成」
- 2-3 ページの「コンポーネントのインストール」
- 2-4 ページの「インストール後の構成」

2.1 要件および考慮事項

次の事項は、Oracle Text Search コンポーネントの使用を検討する際に重要です。

- このコンポーネントは、サポートされているオペレーティング・システムでの Content Server 10gR3 上で稼働します。
- Oracle Text 11g は Oracle Database 11g で使用します。UCM システム・データベースは、Oracle Database 11g、Microsoft SQL Server または UCM 10gR3 の動作保証マトリックスで示されているその他のデータベースでもかまいません。ただし、システム・データベースが Oracle Database 11g でない場合は、Oracle Database 11g とデータベースのプロバイダをインストールする必要があります。
- Oracle Text Search コンポーネントにより、Oracle Text 11g は独立した検索コレクション・インスタンスとして有効になります。このインスタンスは、Content Server インストールと異なるプラットフォームにインストールできます。

2.2 インストール前の構成

管理者が Oracle Text Search コンポーネントを管理するには、Oracle Database 11g を Oracle Text Search コンポーネントで使用できるように構成する必要があります。

- 新しい Content Server のインストールの実行中に、Oracle Text Search コンポーネントをインストールする場合、Oracle Database 11g の管理者はコンポーネントをインストールする前に 2 つの構成スクリプトを実行する必要があります。2-2 ページの「[Oracle Database 構成スクリプトの実行](#)」を参照してください。
- Content Server を 10gR3 より前のリリースから更新する場合、Oracle Database 11g の管理者は、コンポーネントをインストールする前に 2 つの構成スクリプトを実行する必要があります。2-2 ページの「[Oracle Database 構成スクリプトの実行](#)」を参照してください。
- Oracle Database 11g を Oracle Text Search コンポーネント用に構成すると、コンポーネントを管理する Content Server のユーザーに Oracle Database のロールを割り当てる必要があります。これは、Content Server 10gR3 インストールの更新または新規インストールのいずれの場合にも必要です。2-2 ページの「[管理者ロールの割当て](#)」を参照してください。

2.2.1 Oracle Database 構成スクリプトの実行

Content Server 10gR3 より前のリリースからの更新または新規インストールのいずれの場合も、Oracle Text Search コンポーネントをインストールする前に、次の手順を完了する必要があります。

1. Oracle Database 11g に管理者としてログインします。
2. スクリプト contentserverrole を実行します。これにより新しいロールが作成されます。
3. Oracle Database 11g に Content Server の特権ユーザーとしてログインします。
4. PL/SQL スクリプト contentprocedures を実行します。

2.2.2 管理者ロールの割当て

Oracle Database を Oracle Text Search コンポーネント用に構成した後に、Oracle Database 11g で、ロール contentserver_role を Content Server で接続に使用されるデータベース・ユーザーに割り当てます。これは、SQL コマンドを実行して行うこともできます。

2.3 コンポーネントのインストール

注意： Content Server 10gR3 の新規インストール時には、Oracle Text Search コンポーネントのインストールを要求されます。コンポーネントは後からインストールすることもできます。この項では、コンポーネントのインストールの手順を説明します。

Content Server の新規インストール、または既存の Content Server 10gR3 のアップグレードのいずれの場合も、Oracle Database 管理者ロールを Oracle Text Search を管理する Content Server ユーザーに割り当てる必要があります (2-2 ページの「[管理者ロールの割当て](#)」の手順 3 を参照)。

Content Server システム・データベースが Oracle Database 11g でないか、Oracle Text 検索エンジン用に独立した Oracle Database インスタンスを選択する場合、2-4 ページの「[インストール後の構成](#)」を完了して、Oracle Database 11g のプロバイダを設定する必要があります。

Content Server 10gR3 をアップグレードする場合、「[Component Wizard でのインストール](#)」または「[Component Manager でのインストール](#)」を使用して、コンテンツ・サーバーに Oracle Text Search コンポーネントをインストールし、有効にする必要があります。

Component Wizard または Component Manager のいずれかを使用してインストールする前に、まず Oracle Text Search コンポーネント・ファイル (通常、OracleTextSearch.zip) をオラクル社のサポート・サイト MetaLink (<http://metalink.oracle.com>) からダウンロードする必要があります。一時的な場所にファイルを置きます。次に、インストールの手順に進みます。

インストールが完了したら、「[インストール後の構成](#)」を完了する必要があります。

2.3.1 Component Wizard でのインストール

次の手順で、Component Wizard を使用してコンポーネントをインストールします。

1. 「スタート」メニューから「プログラム」を選択して Component Wizard を起動します。次に、「Oracle Content Server」→「<instance>」→「Utilities」→「Component Wizard」を選択します。

Component Wizard のメイン画面と「Component List」画面が表示されます。

2. 「Component List」画面で、「Install」をクリックします。
「Install」画面が表示されます。
3. 「Select」をクリックします。component zip ファイルをダウンロードした場所に移動して、そのファイルを選択します。
4. 「Open」をクリックします。
zip ファイルの内容が、「Install」画面のリストに追加されます。
5. 「OK」をクリックします。

Component Wizard から、コンポーネントを有効にするかどうかを指定するよう求められます。

6. 「Yes」をクリックします。
コンポーネントは、「Component List」画面で有効として表示されます。
7. Content Server を再起動します。

2.3.2 Component Manager でのインストール

次の手順で、Component Manager を使用してコンポーネントをインストールします。

1. 新しいブラウザ・ウィンドを開き、Content Server にシステム管理者としてログインします。
2. 「Administration」トレイ（またはリンク）を選択します。
3. 「Admin Applets」をクリックして、「Administration」ページを開きます。
4. 「Admin Server」をクリックします。
5. 該当するコンテンツ・サーバー・インスタンスをクリックします。
6. サイドバーで、「Component Manager」をクリックします。
「Component Manager」画面が表示されます。
7. 「Install New Component」フィールドの横にある「Browse」をクリックします。
8. component zip ファイルに移動して、選択します。
9. 「Install」をクリックします。
インストールされるコンポーネント・アイテムのリストを示すページが表示されます。
10. 「Continue」をクリックして、インストールを続行します。
インストールが成功したことを示す Content Server のメッセージが表示されます。
11. メッセージ・ページでボタンをクリックして、Component Manager に戻ります。
12. 「Disabled Components」ボックスでコンポーネント名をクリックします。
13. 「Enable」をクリックして、コンポーネントを有効にします。
「Enabled Components」ボックスのリストにコンポーネントが表示されます。
14. サイド・メニューで「Start/Stop Content Server」をクリックします。
15. Content Server を再起動します。

2.4 インストール後の構成

Oracle Text Search コンポーネントをインストールしたら、次の手順を完了して、Content Server インスタンスで索引検索エンジンとして Oracle Text 11g を使用するように構成します。Oracle Database 11g をシステム・データベースとして使用していて、Oracle Text Search をシステム・データベースではなく別のデータベースで使用する場合でも、インストール後の構成が必要な場合があります。

注意：新規の Content Server 10gR3 をインストールするのではなく、10gR3 より前のリリースから Content Server を更新する場合、構成後の作業を実行する前に Oracle Database 管理者は、Oracle Database 11g で設定を構成するスクリプトを実行し、新しいロールを Content Server 管理者に割り当てる必要があります。2-2 ページの「[インストール前の構成](#)」を参照してください。

システム・データベースが Oracle Database 11g でないか、システム・データベースは Oracle Database 11g であるが、Oracle Text Search 用に別の Oracle Database 11g インスタンスを使用する場合、次の手順を完了します。

1. `content_install_dir/bin/intradoc.cfg` ファイルで `JAVA_CLASSPATH_defaultjdbc` を Oracle データベース・ドライバ (`ojdbc14.jar` など) に指定します。たとえば、次のようになります。

```
JAVA_CLASSPATH_defaultjdbc=$SHARED_DIR/classes/jtlds.jar
; $SHARED_DIR/classes/ojdbc14.jar
```

2. データベース・プロバイダを定義します。
 - a. 「Administration」を選択し、「Providers」をクリックします。
 - b. 「Providers」ページで、「Add」をクリックして、データベース・プロバイダを定義します。
 - c. 「Database Provider Information」ページで、次の設定を使用します。

| 要素 | 設定 |
|------------------------|---|
| Provider Name | Oracle11g_provider |
| Provider Description | Oracle 11g Database プロバイダ |
| Provider Class | intradoc.jdbc.JdbcWorkspace |
| Connection Class | intradoc.jdbc.JdbcConnection |
| Configuration Class | oracletextsearch.server.OracleTextProviderConfig |
| Test Query | 2 つのうち 1 つを選択 |
| Database Type | JDBC (ボックスを選択) |
| Database Type | <i>database_type</i> |
| Database Name | <i>database_name</i> |
| JDBC Driver | oracle.jdbc.OracleDriver |
| JDBC Connection String | jdbc:oracle:thin:@sta00894.us.oracle.com:1511:ade |
| JDBC User | <i>instance_name</i> |
| JDBC Password | <i>password</i> |
| Number of Connections | 5 |

- d. 「Update」をクリックします。

Oracle Text Search で使用するすべてのシステム・データについて、次の手順を完了します。

1. config.cfg ファイルに次の構成変数を設定します。

```
SearchIndexerEngineName=OracleTextSearch
IndexerDatabaseProviderName=Oracle11g_provider
```

注意： システム・データベースが Oracle Database 11g で、これが Oracle Text Search 用にも使用される場合、2 番目の変数は IndexerDatabaseProviderName=SystemDatabase とします。

2. (オプション) Oracle Text で単語の分割文字としてアルファベット以外の文字を指定すると、一部の検索演算子を使用するときに問題が生じる可能性があります。異なるフィールドに対して異なる検索演算子を使用するか、config.cfg ファイルで次の変数を使用して、Oracle Text Search 用のアルファベット以外の文字指定を変更することができます。

```
(ORACLETEXTSEARCH) AdditionalEscapeChar=character_to_be_replaced:character_to_be_used
```

たとえば、索引付けの場合、Oracle Text では、oly_12345 を oly 12345 と同じものとして処理します。コンテンツ ID の oly_12345 の CONTAINS 検索では、アンダースコアは検索のワイルドカードとして処理されるため、oly[A]12345 や oly[B]12345 などと一致します。解決するには、次の例のように文字を指定します。

```
(ORACLETEXTSEARCH) AdditionalEscapeChar=_: #
```

3. Content Server を再起動し、索引を再構築します。

Oracle Text Search コンポーネントの管理

この章の内容は次のとおりです。

- 3-2 ページの「[最適化するフィールドの決定](#)」
- 3-2 ページの「[最適化フィールドの割当て / 編集](#)」
- 3-2 ページの「[高速再構築の実行](#)」
- 3-3 ページの「[検索コレクションの最適化](#)」
- 3-3 ページの「[「Text Search Admin」 ページ](#)」

3.1 最適化するフィールドの決定

最適化するフィールドを決定するときには、次のことを考慮します。

- 問合せでは完全一致検索を行いますか。
- 検索での照合を高速化しますか。
- 検索結果をフィールド別にソートしますか。

デフォルトでは、Oracle Text Search コンポーネントは、「Content ID」と「Document Title」のメタデータ・フィールドを最適化します。

最大 32 フィールドを Oracle Text Search コンポーネントによって最適化フィールドとして定義できます。整数フィールドの表示は動的で、Content Server システム構成に依存します。

3.2 最適化フィールドの割当て / 編集

メタデータの非最適化フィールドを選択し、検索のための最適化フィールドに割り当てる場合、または最適化フィールドを編集して非最適化にする場合は、次の手順を遂行します。

1. システム管理者として Content Server にログインします。
2. ナビゲーション・パネルで「Administration」をクリックします。
3. ナビゲーション・パネルで「Oracle Text Search Admin」をクリックします。
「Text Search Admin」ページが表示されます。
4. メタデータ・フィールドを最適化するには、「Non-Optimized Fields」列で対象のフィールド名をクリックし、そのフィールドを「Optimized Fields」列に移動するために適切な矢印をクリックします。
5. 最適化フィールドを編集し、それを非最適化にするには、「Optimized Fields」列で対象のフィールド名をクリックし、そのフィールドを「Non-Optimized」列に移動するために適切な矢印をクリックします。
6. フィールドの移動を完了したら、「Index Fast Rebuild」をクリックして、新規または変更したフィールドを使用するために、検索コレクションを更新します。

注意： 高速再構築は、検索コレクションの再構築がすでに進行中の場合は、機能しません。

3.3 高速再構築の実行

「Text Search Admin」ページの高速再構築のオプションにより、コレクション全体を再構築することなく、検索エンジンで検索コレクションに新しい情報を追加できます。高速再構築は次の場合に必要です。

- 情報フィールドの追加または削除
- 任意の最適化フィールドの変更
- 情報フィールドの最適化フィールドへの変更

高速再構築を実行するには、次の手順を完了します。

1. システム管理者として Content Server にログインします。
2. ナビゲーション・パネルで「Administration」をクリックします。
3. ナビゲーション・パネルで「Oracle Text Search Admin」をクリックします。
「Text Search Admin」ページが表示されます。
4. 「Index Fast Rebuild」をクリックします。

検索コレクションの高速再構築が実行されます。

注意： 検索コレクションの再構築がすでに進行中の場合、高速再構築は実行されません。

3.4 検索コレクションの最適化

多数の検索コレクションが再構築された後に、「Text Search Admin」 ページで「Index Optimization」 オプションを実行して、検索パフォーマンスを最適化すると便利です。この機能は、検索コレクションの索引のブランチおよびスタブをスキャンし、リンクを調整して、メタデータおよびフルテキスト・アイテムの検索に必要な時間を短縮します。

Oracle Text Search コンポーネントを使用して検索コレクションを最適化するには、次の手順を完了します。

1. システム管理者として Content Server にログインします。
2. ナビゲーション・パネルで「Administration」 をクリックします。
3. ナビゲーション・パネルで「Oracle Text Search Admin」 をクリックします。
「Text Search Admin」 ページが表示されます。
4. 「Index Optimization」 をクリックします。

検索コレクション索引の最適化が実行されます。

3.5 検索結果で表示される Oracle Text Search フィールドの変更

Oracle Text Search コンポーネントには、「Search Results」 ページに 3 つのデフォルト・メニュー・オプションがあります (Oracle Database 構成スクリプトで設定)。

`DrillDownFields=dDocType, dSecurityGroup, dDocAccount`

管理者は、最適化フィールドのリストからもう 1 つオプションを追加し、検索結果をさらにカスタマイズできます。構成を編集して、DrillDownFields のリストにオプションを追加します。

3.6 「Text Search Admin」 ページ

Oracle Text による検索のために最適化するメタデータ・フィールドを選択し、Oracle Text Search 索引を再構築するには、「Text Search Admin」 ページを使用します。このページにアクセスするには、Content Server インタフェースのメイン・ページから「Administration」を選択し、「Text Search Admin」を選択します。

Text Search Admin

Administration --> Text Search Admin

Optimal Field Configuration

| Non Optimized Fields | | Optimized Fields |
|--|---------------------------|---|
| Standard Author Content Type Security Group | | Content Type Security Group Customer Code Customer Name Discussion Type Partition ID Stellent Language Stellent Text Stellent Text 1 Stellent Text 2 Storage Rule Web Flag Account AlternateFormat File Extension |
| Custom Customer Code Customer Name Discussion Type Partition ID Stellent Language Stellent Long Text Stellent Text Stellent Text 1 Stellent Text 2 Storage Rule | <div>➔</div> <div>➔</div> | |
| <div>Update</div> <div>Reset</div> | | |

Rebuild And Optimization

Fast Rebuild Status: Idle
Index completed at 6/16/08 9:50 PM.

Index Fast Rebuild

Optimization Status: Idle
Index optimization completed at 6/16/08 3:19 PM

Index Optimization

| 要素 | 説明 |
|--------------------------|--|
| 「Non-Optimized Fields」 列 | Oracle Text 検索エンジンによる検索用に最適化可能な非最適化メタデータ・フィールドのリストを示します。3-2 ページの「 最適化フィールドの割当て / 編集 」を参照してください。 |
| 「Optimized Fields」 列 | Oracle Text 検索エンジンによる検索用に最適化されたメタデータ・フィールドのリストを示します。3-2 ページの「 最適化フィールドの割当て / 編集 」を参照してください。 |
| 「Update」 ボタン | フィールド割当てのリストを更新します。 |
| 「Reset」 ボタン | 最適化のために選択されたフィールドのリストを消去します。 |
| 「Index Fast Rebuild」 ボタン | 最適化のために選択されたフィールドを実装して、Oracle Text 検索索引の高速再構築を実行します。3-2 ページの「 高速再構築の実行 」を参照してください。 |
| 「Index Optimization」 ボタン | 検索の情報取得にかかる時間を短縮するために Oracle Text 検索索引を最適化します。これは、Content Server が長期間稼働していて、多数の新しいコンテンツ・アイテムがチェックインされた場合など、特定の状況で役立ちます。検索索引の最適化により、コンテンツ・アイテムのエントリが圧縮され、検索の効率が高まります。3-3 ページの「 検索コレクションの最適化 」を参照してください。 |

Oracle Text Search コンポーネントによる検索

この章の内容は次のとおりです。

- 4-2 ページの「[検索の実行](#)」
- 4-2 ページの「[Oracle Text Search による検索結果](#)」

4.1 検索の実行

Oracle Text Search コンポーネントが有効な場合の検索実行は、次の場合を除き、一般に同じです。

- 「Search:Expanded Form」ページには、検索演算子オプションとして「Substring」が削除されている以外に目に見える変更はありません。デフォルトの検索演算子は CONTAINS です。部分文字列ベースの問合せはそのまま機能します。
- MATCHES 演算子を非最適化フィールドで使用する問合せは、CONTAINS 問合せと同様に動作します。たとえば、xDepartment が最適化されていない場合、問合せ xDepartment MATCHES 'Marketing' は xDepartment CONTAINS 'Marketing' と同様に動作し、ドキュメントで 'Marketing Services' または 'Product Marketing' の xDepartment 値を持つヒットを返します。

4.2 Oracle Text Search による検索結果

ユーザーが「Search:Expanded Form」を使用して検索を実行すると、「Search Results」ページには、ユーザーが検索結果を選択的に表示できるオプションを含む追加のメニュー・バーが表示されます。オプションは、検索結果をフィルタ処理するために使用されるカテゴリを表しています。オプションは状況依存であるため、1つのオプションに対して1つしかコンテンツ・アイテムが返されなかった場合、メニュー自体に表示される結果は、図 4-1 に示すように1つのみです。オプションのデフォルト・セットには、コンテンツ・タイプ、セキュリティ・グループおよびアカウントが含まれます。

1つのオプションに対して複数のコンテンツ・アイテムが検索された場合、オプション名の横に矢印が表示されます。オプション名の上にカーソルを移動すると、ポップアップにそのオプションに対する検索結果で見つかったカテゴリのリストと、カテゴリごとのコンテンツ・アイテム数が表示されます。ポップアップで任意のカテゴリをクリックし、図 4-2 のように、検索結果ページにそのカテゴリに一致するアイテムのみを表示するように変更できます。図 4-2 では、「Security Group」に、カテゴリと検索されたアイテム数が、「Administration- (3)」、「Marketing- (1)」、「Public- (14)」、「Secure- (5)」、「Production- (1)」として表示されています。

図 4-1 検索結果と Oracle Text Search のデフォルト・メニュー

Search Results Found 11 items

Filter by Category: Content Type:ADACCT Security Group Account











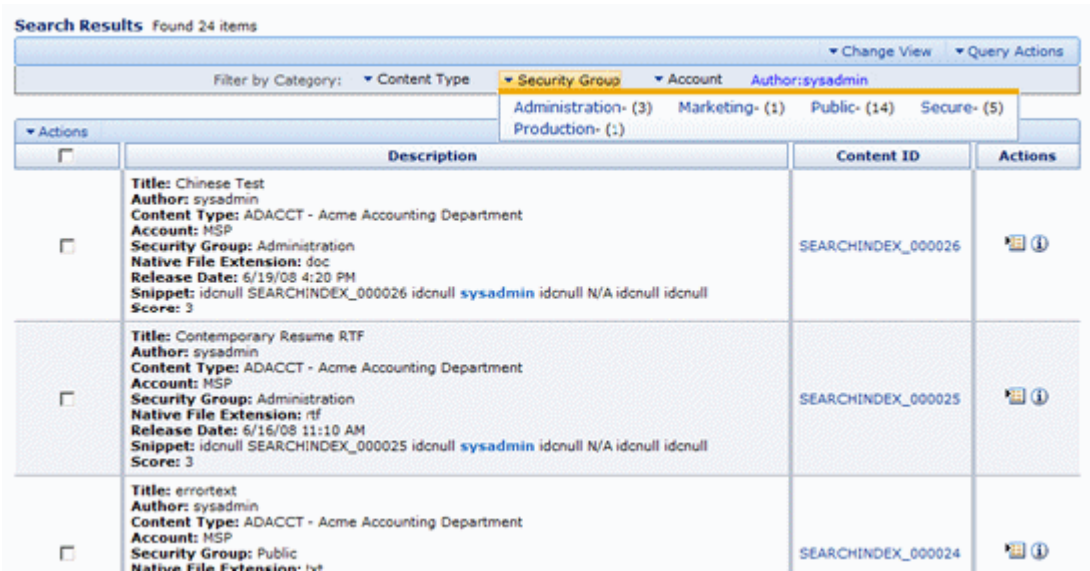
| Actions | | | | | |
|--------------------------|--------------------|-------------|--------|----------|---|
| <input type="checkbox"/> | ID | Title | Date | Author | Actions |
| <input type="checkbox"/> | PPT_TEST1 | PPTTestDoc1 | 6/6/08 | sysadmin |   |
| <input type="checkbox"/> | SEARCHINDEX_000021 | TestDoc19 | 9/4/02 | sysadmin |   |
| <input type="checkbox"/> | SEARCHINDEX_000010 | TestDoc8 | 9/4/02 | sysadmin |   |
| <input type="checkbox"/> | SEARCHINDEX_000013 | TestDoc11 | 9/4/02 | user1 |   |
| <input type="checkbox"/> | SEARCHINDEX_000011 | TestDoc9 | 9/4/02 | sysadmin |   |

図 4-2 スニペット付きの検索結果の表示と開かれた Oracle Text Search メニュー



| 要素 | 説明 |
|--------------------|--|
| Filter by Category | 検索結果をフィルタ処理するために使用されるカテゴリ（「Content Type」、「Security Group」、「Account」など）を表示します。 |
| Content Type | <p>（デフォルト）検索結果内のコンテンツ・アイテムのタイプと各タイプの数が表示されます。</p> <p>コンテンツ・タイプ名の1つをクリックすると、検索結果リストがそのコンテンツ・タイプに一致するアイテムのみを表示するように変更されます。</p> |
| Security Group | <p>（デフォルト）セキュリティ・グループと、検索結果で各グループに割り当てられたコンテンツ・アイテムの数が表示されます。セキュリティ・グループには、「Administration」、「Public」および「Secure」があります。</p> <p>セキュリティ・グループ名の1つをクリックすると、検索結果リストがそのセキュリティ・グループに一致するアイテムのみを表示するように変更されます。</p> |
| Account | <p>（デフォルト）アカウント・タイプと、検索結果で各アカウントに割り当てられたアイテムの数が表示されます。</p> <p>アカウント・タイプ名の1つをクリックすると、検索結果リストがそのアカウントに一致するコンテンツ・アイテムのみを表示するように変更されます。</p> |

サード・パーティ・ライセンス

この付録には、この製品に付属するすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスが記載されています。

- A-2 ページの「[Apache Software License](#)」
- A-2 ページの「[W3C Software Notice and License](#)」
- A-3 ページの「[Zlib License](#)」
- A-3 ページの「一般的な [BSD](#) ライセンス」
- A-4 ページの「一般的な [MIT](#) ライセンス」
- A-4 ページの「[Unicode](#) ライセンス」
- A-5 ページの「その他の帰属」

A.1 Apache Software License

```
* Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.
* Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the
* "License"); you may not use this file except in compliance
* with the License.
* You may obtain a copy of the License at
*   http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0
*
* Unless required by applicable law or agreed to in writing,
* software distributed under the License is distributed on an
* "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND,
* either express or implied.
* See the License for the specific language governing
* permissions and limitations under the License.
```

A.2 W3C Software Notice and License

```
* Copyright 1994-2000 World Wide Web Consortium,
* (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
* Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
* All Rights Reserved.  http://www.w3.org/Consortium/Legal/
*
* This W3C work (including software, documents, or other related
* items) is being provided by the copyright holders under the
* following license. By obtaining, using and/or copying this
* work, you (the licensee) agree that you have read, understood,
* and will comply with the following terms and conditions:
*
* Permission to use, copy, modify, and distribute this software
* and its documentation, with or without modification, for any
* purpose and without fee or royalty is hereby granted, provided
* that you include the following on ALL copies of the software
* and documentation or portions thereof, including
* modifications, that you make:
*
* 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to
* users of the redistributed or derivative work.
*
* 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers,
* notices, or terms and conditions. If none exist, a short
* notice of the following form (hypertext is preferred, text is
* permitted) should be used within the body of any redistributed
* or derivative code: "Copyright [$date-of-software] World
* Wide Web Consortium, (Massachusetts Institute of Technology,
* Institut National de Recherche en Informatique et en
* Automatique, Keio University). All Rights Reserved.
* http://www.w3.org/Consortium/Legal/"
*
* 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files,
* including the date changes were made. (We recommend you
* provide URIs to the location from which the code is derived.)
*
* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND
* COPYRIGHT HOLDERS MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES,
* EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES
* OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE OR
* THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT
* INFRINGE ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR
* OTHER RIGHTS.
*
* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT,
```


* SPECIAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE
 * SOFTWARE OR DOCUMENTATION.
 *
 * The name and trademarks of copyright holders may NOT be used
 * in advertising or publicity pertaining to the software without
 * specific, written prior permission. Title to copyright in this
 * software and any associated documentation will at all times
 * remain with copyright holders.
 *

A.3 Zlib License

* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.3,
 July 18th, 2005
 Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler
 This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no
 event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this
 software.
 Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including
 commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the
 following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that
 you wrote the original software. If you use this software in a product, an
 acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be
 misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org
 Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

A.4 一般的な BSD ライセンス

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California
 All rights reserved.
 Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are
 permitted provided that the following conditions are met:
 "Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of
 conditions and the following disclaimer.
 "Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of
 conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials
 provided with the distribution.
 "Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used
 to endorse or promote products derived from this software without specific prior
 written permission.
 THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY
 EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF
 MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL
 THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
 SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,
 PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS
 INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
 STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF
 THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

A.5 一般的な MIT ライセンス

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

A.6 Unicode ライセンス

UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories

<http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and

<http://www.unicode.org/cldr/data/>. Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

A.7 その他の帰属

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.

FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.

HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.

IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.

Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.

Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.

Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.

Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.

MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.

Portions Copyright 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

Portions Copyright 1997 Soft Horizons. All rights reserved.

Portions Copyright 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.

Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.

Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.

Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.

UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

索引

I

Index Fast Rebuild

実行, 3-2

「Index Optimization」 オプション, 3-3

O

Oracle Text Search コンポーネント

インストール, 2-3

検索結果メニュー・オプション, 4-2

要件, 1-2

Oracle Text Search コンポーネントによる検索, 4-2

Oracle Text Search コンポーネントのインストール, 2-3

S

「Search Results」 ページ

Oracle Text Search, 4-2

Oracle Text Search のフィールド, 3-3

T

「Text Search Admin」 ページ, 3-3

け

検索結果

カテゴリの表示, 4-2

検索結果のカテゴリの表示, 4-2

検索コレクション

最適化, 3-3

検索コレクション・インスタンス, 1-2

プラットフォーム, 1-2

検索コレクションの最適化, 3-3

こ

高速再構築

概要, 3-2

実行する場合, 3-2

さ

最適化するフィールドの最大数, 3-2

最適化フィールド

編集, 3-2

割当て, 3-2

最適化フィールドの編集, 3-2

最適化フィールドの割当て, 3-2

索引の高速再構築

実行する場合, 3-2

て

データベース

Oracle Text での使用, 1-2

データベース・プロバイダ, 2-5

デフォルトで最適化されるフィールド, 3-2

ふ

プロバイダの定義, 2-5

